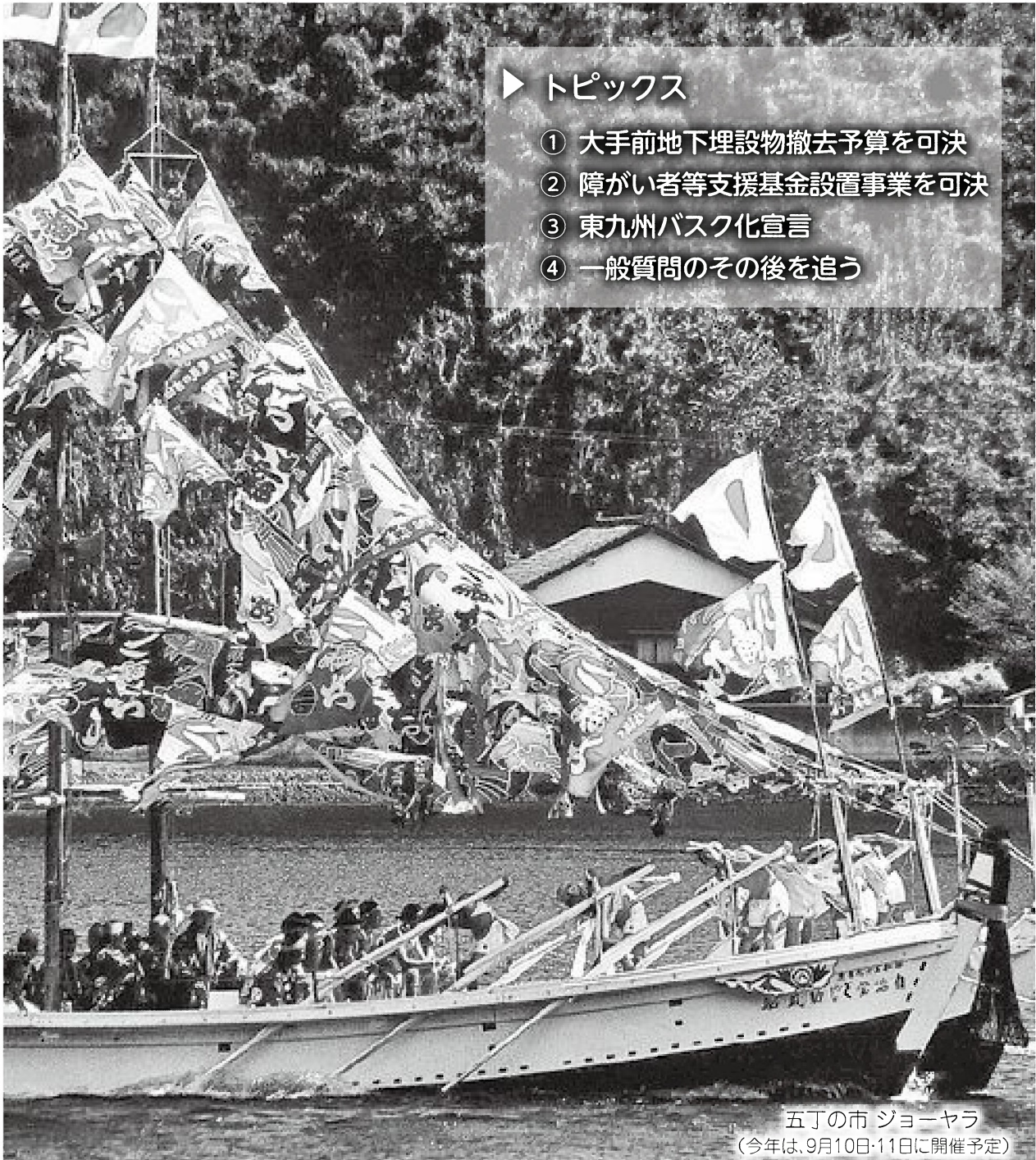


6月定例会は6月6日から6月28日までの23日間の会期で開催されました。



▶ トピックス

- ① 大手前地下埋設物撤去予算を可決
- ② 障がい者等支援基金設置事業を可決
- ③ 東九州バスク化宣言
- ④ 一般質問のその後を追う

五丁の市 ジョーヤラ
(今年は、9月10日・11日に開催予定)

★市議会は、受付の名簿に氏名等を記入するだけで傍聴できます。お気軽にお越しください。

★市議会に関する情報は佐伯市のホームページから閲覧できます。

こんなことを審査しました

平成28年 第2回

定例会の概要

6月定例会は、6月6日に開会し、予算議案2件、予算外議案6件及び専決処分報告17件が上程されました。

6月7日には、予算特別委員会を開催し、補正予算議案1件を先議し、14日の本会議において採決を行いました。

また、同日から17日まで16人による一般質問が行われました。21、22日には、各常任委員会がそれぞれ所管する案件について審査し、23日には、

予算特別委員会において平成27年度一般会計補正予算及び特別会計補正予算11件並びに議案第59号平成28年度一般会計補正予算1件、計13件を審査しました。28日に各議案等について、それぞれ採決を行いましたので、主な内容・審議結果についてお知らせします。

大手前開発で

まちづくりを推進!

6月23日に、委員全員出席のもと、予算特別委員会を開催し、審査をしました。

予算特別委員会 (審査)

質疑 (土木費)

平成28年当初予算において、大手前開発事業に係る予算10億4459

地下埋設物撤去など

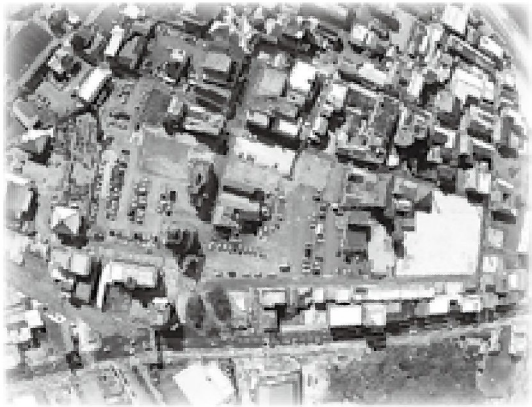
9000万円を可決!

補正予算

万円を3月に可決後、6月に9000万円を増額補正を行おうとする理由について。

▼ 答弁

9000万円のうちの8000万円は、平成30年度からの複合施設等の新築工事を発注する際に、変更で処理をしようと考えていたが、あらかじめ撤去することにより、工期内の完成が確実になるため、6月補正に計上した。撤去工事の工期は9月に着手し、今年度末の完了を予定している。



▲ 大手前開発事業実施予定地

質疑 (土木費)

複合施設等が完成した場合、年間の維持管理費及び本事業の費用対効果について。

▼ 答弁

これから作成する管理運営計画と併せて維持管理費を市民、議会に報告する。また、費用対効果については、この大手前開発事業は、市民ホールと併せて、一体的に整備を行い、そこににぎわいとか、あるいは人の交流が生まれる、そういうものを含めての総合的效果と考える。行政だけではなく、市民や経済界が一体となり、佐伯市全体で取り組むことにより、その効果は非常に大きくなる。この大手前開発事業における費用対効果については、まちづくりのための将来的投資だと理解してほしい。

質疑 (土木費)

白紙撤回を行った前回の大手前開発事業と今回の大手前開発事業の財源内訳に違い、前回の大手前開発事業に比べて、今回は補助金である社会資本整備交付金の割合が減り、起債の合併特例債の割合が増加しているが、本事業に係る財源の考え方に

▼ 答弁

財源については、社会資本整備交付金の事業対象メニューを積極的に織り交ぜながら、できる限り社会資本整備交付金を特定財源として充当し、充当できない部分は合併特例債を充当していく考えである。

採決

採決の結果、可決すべきものと決しました。

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
基本設計 ～H28.12	→	→			
実施設計 ～H29.9			→		
地質調査等 H28.6～		→			
建築工事 H30.4～				→	→
道路工事 H29.1～			→	→	→

▲ 大手前開発事業スケジュール (概略工程)

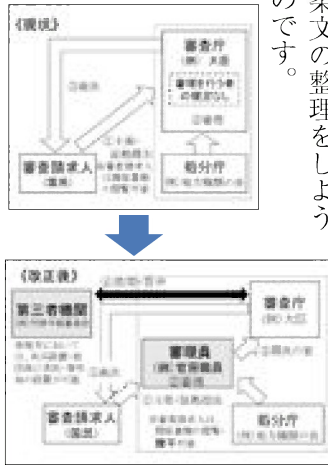
総務常任委員会

付託された予算外議案2件について審査し、全可決すべきものと決しました。

佐伯市営土地改良事業の経費の賦課徴収に関する条例の一部改正

条例改正の目的は？

行政不服審査法の全部改正に伴い、不服申立て期間の延長と不服申立構造を審査請求に一元化するための条文の整理をしようとするものです。



佐伯市行政組織条例及び佐伯市食育推進会議条例の一部改正

平成28年度の組織改編に伴い、部課の事務分掌（業務の分担）を改めたことにより、行政組織条例及び関係条例の整理を行うものです。

- 行財政改革の推進に関すること
- 総合政策部↓総務部
- 佐伯市食育推進会議の庶務
- 地域振興課↓まちづくり推進課
- 佐伯市行財政改革推進委員会の庶務
- 総合政策部秘書政策課↓総務部総務課

教育民生常任委員会

付託された予算外議案3件、専決処分の報告4件及び請願1件、計8件を審査し、全て可決・承認・採択すべきものと決しました。

請願第16号

少人数学級推進などの定数改善と義務教育費国庫負担率2分の1復元及び制度の拡充を図るための2017年度政府予算に関する意見書採択を求める請願

全委員の賛成により採択すべきものと決定！
国の関係機関に意見書提出へ！

質疑 複式学級の解消を意見書に入れられないのか。

答弁 複式学級を解消するよう要求を進めると、その方法として学校を統廃合する懸念がある。校区の区域拡大、通学の問題や放課後の子どもたちの遊ぶ場の確保など、子どもの学習権や学びの保証を奪う形になるとも考え、複式学級の解消については明記していない。

質疑 30人学級が実現した場合、現在の校舎の教室数で対応できるのか。

答弁 現状で30人学級になった場合、一つの学校で言えば、最大で4学級増えることになるが、どの学校においても可能である。



▲ 授業風景

経済産業常任委員会

付託された予算外議案1件及び専決処分の報告1件、計2件を審査し、全て可決・承認すべきものと決しました。

佐伯市中小企業活性化基本条例を制定！

佐伯市中小企業活性化基本条例とは？

中小企業が地域経済の発展に果たす役割の重要性に鑑み、本市の中小企業の振興に関して基本的な事項を定めるとともに、関係者の役割等を明らかにすることで、中小企業の活性化を図り、本市の持続的発展及び市民生活の向上に寄与することを目的としています。

質疑 中小企業支援団体という名前が出てくるが、具体的な名前、団体名や協議会等があるのか。

答弁 支援団体とは、商工会・商工会議所、金融機関といったところが支援団体となり、決まった名称の団体はない。協議会等については、今後、検討していきたい。

質疑 既に取り組みを始めている事業もあるとのことだが、どのような事業か。

答弁 小規模事業者経営改善資金、新規に創業されようとする方の支援、利子補給の問題等が今年度の新たな取り組みとなっている。





東九州バスク化宣言

佐伯市と延岡市が手を組んで 美食の街へ

世界一の美食の街と言われるサン・セバスチャンを擁し、フランス・スペインにまたがるバスク地方をモチーフに、九州で1位、2位の面積を誇り、海・山・川の豊かな恵みを楽しむ佐伯市と延岡市が、「食」と「連携」をキーワードとして新たな経済・文化圏の形成を目指します。

平成28年7月25日、延岡市にて両市議会での合同研修会を行いました。



▲佐伯ラーメン



▲ごまだしうどん



▲宇目しし鍋



▲佐伯の鮎



▲佐伯寿司



▲延岡鮎焼き



▲伊勢えび料理



▲延岡辛麺



▲チキン南蛮



▲メヒカリ料理

あれ、どうなったん？
一般質問のその後を追う

質問者 矢野幸正 議員

佐伯市特定公共賃貸住宅の入居者募集の広報の拡充について
(平成27年第3回定例会)

その後

今年度リニューアル予定の「佐伯市空き家バンク」ホームページにおいて、「佐伯市営住宅募集情報」にリンクするバナーを設置予定。

質問者 清家儀太郎 議員

ふるさと納税の増額に向けた制度の充実について
(平成27年第1回定例会)

その後

クレジット決済の導入、大手ふるさと納税サイトとの連携、謝礼品の大幅拡充を行った。

質問者 佐藤 元 議員

農業の将来像をどのように捉え、どのような対策を施していくのか
(平成27年第5回定例会)

その後

農地集積に対する支援は、平成28年度から、モデル集落を対象として事業化している。

質問者 御手洗秀光 議員

「空き家等対策の推進に関する特別措置法」に沿った形で「佐伯市空き家等の適正な管理に関する条例」の改正を行っていくのか
(平成27年第3回定例会)

その後

平成28年度中に協議会を設置し、平成29年度中に条例の改正等を行う予定。

質問者 上田 徹 議員

地方卸売市場葛港市場のリノベーション事業について
(平成27年第5回定例会)

その後

市場機能として使用する以外の面積を活用して、にぎわいづくりのスペースを確保するための実施設計書を平成28年度に作成する。



▲ 地方卸売市場葛港市場

質問者 富松万平 議員

市内高校通学生保護者の高額負担を解消するため、運賃補助ができないか
(平成27年第4回定例会)

その後

平成28年度より、公共交通機関10km以上利用者を対象に、通学定期券代の2割の助成を制度化した。

質問者 浅利美知子 議員

婚姻届出の際の記念撮影について、何か考えられないか
(平成27年第4回定例会)

その後

現在、婚姻届を提出される方の希望により婚姻届を飾って写真撮影ができる「メモリアルフォトサービス」の実施に向け、プレートを試作中である。



▲ 城山の石垣

質問者 矢野精幸 議員

佐伯城跡の石垣が見えるように
できないか
(平成27年第5回定例会)

その後

平成27年度に山頂部の樹木
調査及び伐採後のシミュ
レーションを行った。平成
28年度は、検討委員会を設
置し、前向きに取り組む。

質問者 清田哲也 議員

学校におけるフッ化物洗口の実
施を検討・研究することはでき
ないか
(平成27年第5回定例会)

その後

「佐伯市園児児童生徒の健
康づくり検討委員会」を立
ち上げ、学校現場における
フッ化物洗口の導入や肥満
等、子どもたちの健康につ
いて協議・検討する場を設
ける。

質問者 吉良栄三 議員

エコパークについて、住民への周
知・啓発や地元の盛り上げに力
を入れるべきでは
(平成27年第5回定例会)

その後

平成28年度に地元協議会を
設置し、本協議会を通じて
事業を推進する。また、啓
発用ビデオ及び小中学生用
パンフレットを作成する。



▲ 尾浦漁港

質問者 塩月健治 議員

尾浦漁港の新たな防波堤の設置
について
(平成27年第4回定例会)

その後

次期漁港漁場整備長期計画
の見直し (H29) で対応
予定。



▲ 防犯カメラ

質問者 後藤勇人 議員

防犯対策を強化するため、学校
や公共施設に防犯カメラを設置
する考えがないか
(平成27年第3回定例会)

その後

防犯カメラを今年度、学校
(渡町台小、鶴岡小) に設
置予定。今後も計画的に学
校に設置予定。

一般質問

6月14日、15日、16日、17日

※一般質問の掲載について

一般質問の記事は、議員の責任において、本人が質問・答弁の原稿を作成しています。その内容に相違がないときは原則として原文のまま掲載しています。

なお、一般質問の掲載順序は紙面の都合上、質問順とは異なります。

質問者	質問の要旨
井上清三	・障がい者福祉政策について ・地域活性化・市民協働について
上田徹	・2016西日本B-1グランプリin佐伯の現状と課題について ・避難路の整備方針について
清家儀太郎	・佐伯市の防災対策と危機管理について
塩月健治	・防災対策について ・保育所の統合について
佐藤元	・合併特例債の検証について ・津波避難タワー整備について ・合併時の調整事項について
兒玉輝彦	・防災対策について ・高校生遠距離通学費補助金について
吉良栄三	・東九州バス化構想について ・高校生遠距離通学支援の拡充について
清家好文	・一次産業の振興について ・観光行政について
浅利美知子	・福祉避難所について ・AEDの設置について ・地域猫について ・祖父母手帳について
矢野幸正	・戦没者慰霊碑について ・出産祝い金制度の創設について ・旧小野市中学校グラウンドのナイター施設について
清田哲也	・佐伯市立佐伯図書館の利活用について ・総合運動公園の利活用について ・避難所一覧について
高司政文	・熊本地震の教訓と佐伯市の対応について
後藤勇人	・災害に強いまちづくりについて ・ICTを取り入れた教育への取組について
三浦渉	・久部保育所の建て替えについて ・地震・津波対策について ・番匠川に架かる橋梁の耐震性について
富松万平	・地域医療について
御手洗秀光	・地震対策について ・庁舎建設について ・高速バスの停留所について

答

大分県の条例は、障がい者の考え方、皆さんの意見が入っている。いろんな地域事業、その他を調査・精査を来年度に向けて、しっかりとやらせていただきたいと思います。

障がいを持った子の親で、「わが子が自分より先に死んで欲しい」とか「いつかこの子と一緒に死ぬしかない」という悲壮な思いを胸に秘めている方が多いと聞く。それは自分が亡くなったり、高齢で世話ができなくなるのを案じての事である。大分県が制定した条例は、この親なき後の支援体制への対応がなされるとともに、障がい者だけに限った条例ではなく、職場や集団でうまくいかず、様々な生きづらさを抱え、ひっそりと悩んでいる人への配慮もされている。その生きづらさを最も強い形で受けているのが障がいを持っている人とその家族である。そんな人が暮らしやすい地域は、高齢者・子どもなど全ての人が暮らしやすいことである。生きづらさを解決し、力を合わせ取り組むことで、誰もが安心して暮らせる地域、佐伯市となるものと確信している。県条例と整合した佐伯市独自の条例制定を問う。

問



全ての人が暮らしやすい
佐伯市条例制定について

井上清三



B-1グランプリin佐伯 成功に向けて！

上田 徹

問 現在の準備状況について問う。

答 開催場所については、佐伯文化会館下お祭り広場と市役所駐車場に決定した。また、B-1会場近くと佐伯港周辺で「佐伯まるつと博」と総称した併催イベントを行い、佐伯の魅力をもPRしていく。

問 佐伯のPRをどのように行っていくのか。

答 一次産品や加工品を展示・販売するブースを設けていく。また、市内観光施設等を周遊するスタンプラリー等も検討している。

問 市民の参加や協力について問う。

答 B-1グランプリの目的は「ご当地がグルメを通じて地域をPRする」となっている。「佐伯市へようこそ」の気持ちを込めた「おもてなし短冊」の作成や「おもてなしトイレ」への登録をお願いしていく。ボランティアの募集等も行っていく。



▲ B-1グランプリ成功に向けての会議



佐伯市の防災対策と 危機管理について

清家 儀太郎

問 本市の防災に係るBCP「業務継続計画」について、策定状況と熊本地震後の見直しの予定はあるのか。

答 本市の災害に係る業務継続計画は、平成26年3月に策定した。南海トラフ巨大地震を想定し、災害発生時の人、物、情報、ライフライン等の利用できる資源に制約がある状況下において、優先すべき応急業務や継続性の高い通常業務を特定するとともに、業務継続に必要な職員、庁舎、資機材等の確保、指揮命令系統の明確化について、必要な措置を講じ、災害時により適切な業務執行を行うことを目的としている。より実効性の高い内容に見直しを行っている。

問 災害時の罹災証明発行に係るシステムの構築はしているのか。交付の手順の確立はできているか。

答 平成25年10月に被災者支援システムを導入しており、これにより被災者台帳を作成し、迅速に罹災証明が発行できるようシステム構築している。罹災証明は、課税課が被害認定調査を実施し、市民課にて申請の受付と交付を行う。



津波避難タワー 整備について

佐藤 元

問 女島地区の避難タワー建設については、液状化問題があるため見送っていたと思うが、その後、調査研究が進んだのか問う。

答 今回の女島地区の避難タワー建設は、当該地区の津波避難困難地域の解消に向け実施するものである。

問 行政は避難場所についての調査をどのように行ってきたのかを問う。

答 避難地、避難路の適地見直し調査を行い、その結果に基づいて現地調査を行っている。また、南海トラフ巨大地震の被害想定は津波の高さに応じて、高さの不足する避難地については、見直しを行い、さらに昨年度、山や建物等で対応が困難な津波避難困難地域の抽出を行った。

問 興人の送水管、下水道の本管が地上に吹き上がった場合の対策を問う。

答 興人の送水管は、早急にポンプを止め、対応する。下水道管については、地盤の液状化に対して対策を施している。

問 避難タワー建設の地盤災害対策を問う。

答 具体的対策は、設計段階で検討していく。



蒲江の保育所統合は!!

塩月 健治

問 蒲江地域の保育所統合計画は？

答 現在、蒲江地域には、蒲江・西浦・竹野・森崎・畑野浦の5か所の保育所があり、約130名の入所児童がいる。このうち畑野浦を除く4か所の保育所を1か所に集約し、こども園化したいと考えている。

問 統合する理由は？

- ① 津波に対して、より安全な場所に移転したいこと。
- ② 施設の老朽化により建て替え時期が到来していること。
- ③ 1か所の保育所については、園児数が著しく減少していること。
- ④ 近年、蒲江地域は道路状況が著しく好転し、保護者の送迎の負担も緩和されていること。
- ⑤ 保育環境の向上と幼児保育の充実を図り、併せて、保育士が不足している現状からも効率のよい運営を行うこと。

問 こども園の開園予定と地元説明会は？

答 平成32年4月に開園の予定である。地元説明会は、これまでの説明が不十分だったため、今後は、真摯に向き合い、説明会を開いて理解を得たいと考えている。



防災対策について

兒玉 輝彦

問 海岸部の避難路、避難地及び備蓄倉庫の整備状況とそれぞれに要した額及び見込み額を問う。

答 既存の避難路は490か所。新たに整備した箇所は274か所で、事業費が2億7939万1000円。避難地は560か所。備蓄倉庫は69の自主防災組織で84棟、事業費は1億1726万5000円。市で大型備蓄倉庫を1か所設置し、事業費5190万0000円。その他に大規模避難地整備として、長島山、女島山の整備を行っている。さらに、津波避難対策緊急事業計画で人工高台に約7億円、2基の津波避難タワーに約3億5000万円を見込んでいる。

問 山間部の防災計画・地震対策はどのような進められているか。現在の取り組みを問う。

答 山間部は、自然条件と集中豪雨等により土砂災害の可能性が高い。また、高齢化が進んでおり、災害対応において、事前の避難行動・避難生活等には十分配慮を要する。市では、防災パトロールの実施、孤立し通信手段が途絶える地区への衛星携帯電話の配備や要支援者の避難について個別計画を策定している。県・市において、土砂災害により被害を受ける恐れがある区域の基礎調査を行い、住民に周知している。



観光行政の課題について

清家 好文

問 本市の観光行政について、どのような課題があるのか。

答 本市の観光行政の課題については、まず観光地としての認知度が低いという点であり、その最大の要因のひとつは観光地としての圧倒的な資源がないことである。

全国において、観光先進地は観光地としての資源特性に恵まれていると感じる。広大で、海、山、川の自然や歴史も文化もある佐伯市であるが、それは大なり小なり他市にもあるもので、例えば別府市の温泉や臼杵市の石仏のように、他市より飛び抜けたものがないため、ダイナミックな集客が難しい面がある。

さらに、本市は九州一広い市であり、各地域にある観光施設やポイントの多くは旧市町村時代に各地域が作り上げたものであるため、それぞれが遠く、広すぎて多くを周遊しにくいことである。

今後については、市及び観光関係機関等がこの課題を真摯に受け止め、課題解決に向け、現行の事業推進と更なる事業の推進を図っていく必要がある。



▲道の駅かまえ



遠距離通学支援の拡充を

吉良 栄三

問

高校生の遠距離通学費の補助制度が今年度からスタートした。要綱では、10km以上の通学距離があり、公共交通機関を利用し、市内の高等学校に在学する生徒を対象としているが、通学費の負担軽減の趣旨からすれば、佐伯市に隣接する地域の通学でも市内に在住していれば補助の対象にできるよう、支援の拡充は考えられないか。

答

佐伯市高校生遠距離通学費補助金交付要綱では、佐伯市内の高等学校等の入学者を確保し、交通機関の利用を促進するため、高校生等の保護者に対し、その生徒の通学に要する経費の一部を補助することを目的としており、対象者を拡充すれば、費用面も多額となることから現時点では困難である。

問

県内でも通学補助を実施している自治体は多く、下宿や市外の通学でも補助の対象にしている自治体もある。財源は過疎債も活用できるので、定住促進という観点からも支援の拡充について検討する必要があるのではないか。

答

この補助制度は始まったばかりなので、今後は保護者の意見や公共交通の動向等、そして県の将来的な支援や他市の状況等について調査研究はしていきたい。



福祉避難所について

浅利 美知子

問

熊本地震では、一般避難所での生活が困難な高齢者等への支援が課題となった。熊本市では、176施設を福祉避難所に指定し、約1700人の受け入れを確保していたが、受け入れ施設等も被災し、機能しなかった。本市においても、要援護者対策を強化する必要があると考えますが、災害時自力で避難が難しい市民の把握はできているのか。

答

社会福祉協議会が民生委員児童委員協議会と作成している災害時要援護者マップによると、4150人となっている。

問

福祉避難所は何か所あるのか。また、どのくらいの受け入れを想定しているのか。

答

福祉避難所の設置運営に関する協定書を交わしているのは42か所で395人を想定している。また、地域防災拠点となる総合運動公園に福祉避難所機能を持つセミナーハウスが建設予定で、要援護者の受け入れについても重要な拠点になると期待している。

問

熊本市は北九州市に福祉避難所を要請し、210人の受け入れが可能となった。本市も他市と協定を結んでおく必要性はないか。

答

他市への要請の仕組み作りも今後の課題と考えている。



佐伯球場に ナイター設備の設置を！

清田 哲也

問

佐伯球場への照明設備の設置に対する考えを問う。

答

佐伯球場にナイター設備があれば、利用者の利便性の向上、夜間利用者の増加が見込める。また、大会誘致、競技力の向上などの面からも必要な施設であると考えている。

しかし、照明施設の設置については、球場が大規模なため、設置費用及び維持管理費が多額になることが予想され、財政負担が大きく現時点では難しいと考える。

現在、佐伯球場では、老朽化したスコアボードの改修工事を平成29年度に予定している。

照明設備に関しては、大会誘致、競技力向上のために必要な施設と考えているので、今後、日本スポーツ振興くじの助成等の活用による財源の確保を図るとともに、地域住民の理解を得ながら、ナイター設備の設置に向けて考えていきたい。



▲改修予定のスコアボード



戦没者慰霊碑について

矢野 幸正

問

昨年は戦後70年という節目の年であった。佐伯市管内には、旧市町村単位で過去の戦争で亡くなった方々が合祀されている慰霊碑が建立されている。管内に何基建立されていて、その慰霊碑の維持管理の現状について問う。

答

市としては維持管理をしておらず、英霊の顕彰などを目的として活動されている地元の遺族会にお願いしている。数については、旧市内に7基、振興局管内に17基、計24基は把握している。

問

遺族会の高齢化、会員の減少に伴い、年々慰霊碑の維持管理が困難となってきた。遺族会の今後の負担軽減を考えたとき、市として高圧洗浄等の清掃費を遺族会補助金に乗せして交付する考えはないか問う。

答

現状の補助金で対応してもらいたい。

問

将来的な管理が不安定視される。台帳の整備と災害等で想定される高額な補修費について問う。

答

市としても管内全ての実態を把握しておらず、調査をし、台帳整備は検討したい。また、大規模な補修等の事例が発生した時は、遺族会と調整したい。



番匠川にかかる 橋梁の耐震性について

三浦 渉

問

私の一番なじみの深い番匠川。番匠川に架かる橋梁の耐震性について、必ず来るであろう南海トラフ巨大地震が発生した際に、番匠川に架かる市の関係の橋梁は耐えきるのか問う。

答

番匠川に架かる橋梁の数は、最下流の新佐伯大橋から本匠地区の土紙屋橋まで37橋かかっている。その内訳は、国土交通省が管理する橋梁が3橋、大分県が管理する橋梁が14橋、残り20橋が佐伯市の橋梁管理となっている。南海トラフ巨大地震が発生した際、これらの橋は耐え得るのかは、佐伯市の20橋については、山梨子橋、三竈江橋、虫月橋の3橋が耐震化対策済みであるが、残りの17橋については、耐震化対策は完了していないため、巨大地震が発生した際に耐え得るかの判断については、大変厳しいものがある。



▲市の管理となっているが耐震化対策が未実施の長瀬橋

問

災害時において、総合運動公園は重要な役割を果たす場所であると思うが、各施設の利用計画や防災関係機関への割り当てについて問う。

答

大分県では、南海トラフ地震等の大規模広域災害を想定し、平成26年6月に「大分県広域防災拠点基本計画」を策定し、「大分スポーツ公園」に広域防災拠点としての機能を持たせ、災害時には市町村と連携を図り、災害対応を行うこととしている。その中で、佐伯市総合運動公園は、「応援部隊救助活動拠点」「物資輸送拠点」として位置付けられている。佐伯市総合運動公園に持たせる機能の配置等について、現在整備を進めている「上城地区防災・避難広場」については、救援物資等の集積・輸送拠点として、大型備蓄倉庫、屋内練習場を整備する。同エリアに整備予定の地方卸売市場は、災害時の大分県の拠点市場として位置付けられた。次に野球場・陸上競技等のエリアについては、自衛隊、消防、警察等の広域救援部隊が進出する終結・宿営拠点として、多目的広場は、臨時ヘリポートとして利用するよう計画している。また、総合体育館・弓道場等は、避難エリアとして、市民の受け入れ施設とするよう計画している。



佐伯市総合運動公園を 安全・安心の防災拠点に！

後藤 勇人



熊本地震の教訓と 佐伯市の対応について

高司 政文

問 被災地に対する支援内容を問う。

答 南阿蘇村へ本市職員を継続的に派遣している。また、義援金受付、市営住宅の提供、空き家物件の募集等を実施している。市独自の支援として、やよいの湯及び鉱泉センター直川で熊本県民を対象に入浴施設の無料開放を8月31日まで行っている。

問 支援の在り方について職員間で温度差があったと聞くがどうだったのか。

答 被災地のニーズ変化を経験等から分析し、支援を組み立てるといふ点で不十分だった。

問 避難所の見直しについて問う。

答 熊本地震では長引く余震等で車中・テントで多くの方が避難生活をしている。今後避難所の在り方についてグラウンド等のオープンスペースについても緊急避難場所として検討する必要がある。

問 地域コミュニティの大切さについて問う。

答 過疎化・高齢化の中で地域コミュニティの充実・形成は、防災のみならず、福祉や防犯、地域環境の改善等の問題に対しても重要な要因であり、必要なものと考ええる。



医師確保など佐伯の地域 医療への早期取り組みを！

富松 万平

問 本市の地域医療の現状と対策は？

答 本市の医療については、佐伯市医師会をはじめ市内医療機関の御尽力により一定の確保はされていると考えており、医師確保を含む地域医療の充実に向け、医師会、医療機関と協議・連携していきたい。

問 地域医療の対策として、医師確保については、今年度に入り県担当課に出向き、地域の現状と対応策について共有を図っている。特に緊急の課題である救急医療体制については、市長名で佐伯市医師会に対し救急医療体制にかかる協議の場として救急部会の設置を求める要望を提出している。

問 県や大分大学へのアプローチは？

答 大分大学へのアプローチを含め県担当課と協議を重ね、取り組んでいきたい。

問 地域医療全般を包括的にコーディネートやマネージメントできる地域医療政策策定部署を新設する考えはないか。

答 市としては、まず地域包括ケアシステムの実現に取り組んでいる。地域医療、救急医療の課題も十分認識しており、庁内の関係部署と課題解決に向けて調整していきたい。



佐伯市非核・平和宣言 都市塔の設置について

御手洗 秀光

問 新庁舎建設に伴い3年間撤去していた佐伯市非核・平和宣言都市塔の設置場所は決めているのか。

答 旧第3庁舎跡地に建設予定の公用車駐車場と倉庫棟の配置計画を検討する段階で、全体を含め具体的な場所を決めたいと考えている。

問 いつ出来るかわからない建物を持つてそこに建てるというよりも、既に完成している来客用駐車場の見やすいところを検討する必要があるのではないか。

答 旧第3庁舎跡地となると、かなり遅れるので、今ある本庁舎周辺の用地で適地がなにか検討させてもらいたい。



▶ 旧庁舎に設置されていた
非核・平和宣言都市塔



▲ 第8回議会報告会 宮野浦地区公民館の様子

第8回 議会報告会 今年も活発な意見交換が！

平成28年5月16日から19日までの4日間、市内15会場で、議長を除く議員全員を抽選で5班に分けて第8回議会報告会を開催しました。

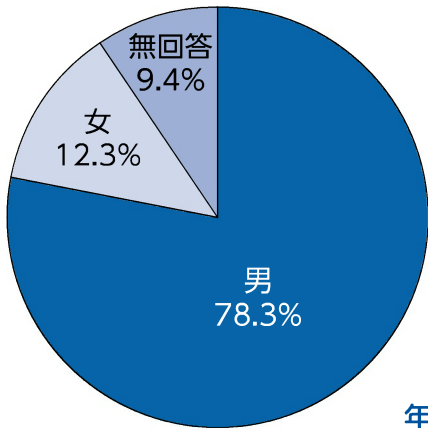
最初に、各常任委員会ごとに、主な議案の説明や行政視察の内容などを簡潔に報告しました。その後、意見交換会に移り地域の課題や議会への意見などが出され、活発な意見交換会になりました。

参加者は60才以上が多い アンケート集計結果

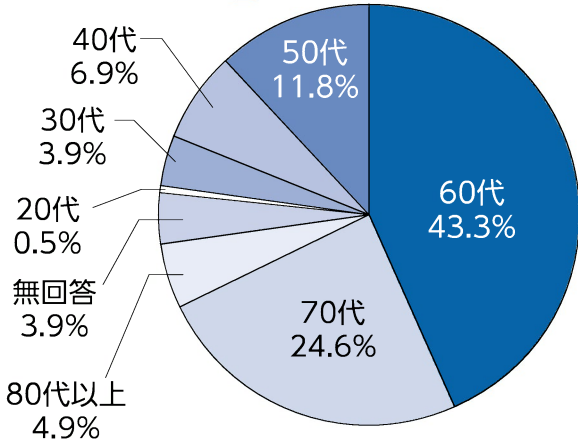
議会報告会終了後、参加者にアンケート調査の協力をいただきました。その結果を報告いたします。

回収したアンケート結果

男女別比率



年代別比率



【評価する】と回答
6割が

開催日時の希望は、現状のままで良いが65%で最も多く、次いで土日の午後7時からが17%でした。5月は農繁期のため午後7時30分からは

昨年参加者は251人で、今年参加者は282人で少し増えています。アンケートの回答者は203人で回収率は約80%でした。男女別では、男性が8割近くあり、女性の少なさが顕著に表れました。年代別では一番多いのが60歳代で43.3%、次が70歳代の24.6%です。60歳以上がほとんどであり、年代に偏りがあります。

さまざまな意見

【議会報告会に対して】

議員と意見交換ができ、身近に感じた。
もっと若い人が参加すればいいと思う。
もう少し地区の現状を確かめて話をしてほしい。現状を知らなすぎではないか。

市議会に対して

執行部の施策だけでなく、議員提案の施策も考えるべきではないか。
地元出身の議員を地元に出席できるように配慮してほしい。
この程度の議会報告会で開催する必要があるのか。
アンケート調査の意見では、おおむね報告会の必要性や開催の労をねぎらう意見が多数ありましたが、中には厳しい意見もありました。これからも貴重な意見を参考にしながら今後の議会報告会について考えていきます。

市政に対して

●津波だけでなく山間部も山崩れで逃げ場がない。地区別の避難箇所の指導等を検討してほしい。

●漂流ゴミと漂着ゴミをどうにかしてほしい。高齢化した地区民のボランティアに任せていていいのか。

●佐伯市内に廃校がたくさんあるが施設の有効利用を進めてほしい。

●多くの要望、意見が50件近くありました。これらを各常任委員会で調査し、議会としての回答をホームページで報告します。

●反省と課題●

参加人数が増えない

アンケート調査にもあるように参加者のなかでは議会報告会には評価が高く、必要性を感じているようです。

しかし、参加者が固定化しているのではないかと、もっと幅広い年齢層の人に来てもらわなくてはならないなど課題は多くあります。そのためには時間帯の変更や日曜開催など、協議を重ねていかねばなりません。

平成27年度 政務活動費 収支報告内訳一覧

- 政務活動費は議員の調査研究に必要な経費の一部として、議員一人当たり年額20万円を会派及び無会派議員に交付しています。
- 交付決定額から実績額を控除して残余がある場合は、その残金を返納しています。また、交付決定額を超過した額は、会派及び無会派議員で負担しています。
- 平成27年度における会派及び無会派議員の支出状況、主な使途は次のとおりです。

単位 (円)

会派名	実績額											交付決定額
	調査研究費	研修費	広報費	広聴費	要請・陳情活動費	会議費	資料作成費	資料購入費	人件費	事務所費	合計	
伯盛会 (11人)	1,869,626	11,000	294,222	0	0	0	0	49,248	0	0	2,224,096	2,242,100
新風会 (5人)	486,629	5,000	12,100	0	0	0	119,661	0	0	84,220	707,610	1,000,000
無所属の会(2人)	161,340	2,000	338,344	0	0	0	0	0	0	0	501,684	400,000
公明党 (2人)	383,597	1,000	0	0	0	0	28,271	0	0	0	412,868	400,000
自民党 (2人)	145,015	0	0	0	19,340	0	31,144	49,964	0	76,779	322,242	400,000
高司政文(無会派)	0	44,090	86,600	8,110	42,800	0	555	92,880	0	0	275,035	200,000
井野上 準(無会派)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200,000

会派名	政務活動費の主な使途
伯盛会 (平成会、市民の会、開政会が解散し、合併)	【調査研究費】管外視察調査<定住促進対策について(秋田県仙北市)、循環型農業推進事業について(秋田県湯沢市)、健康の駅よこての取り組みについて(秋田県横手市)、海上自衛隊呉地方隊表敬訪問(広島県呉市)、岡山ESDプロジェクト事業について(岡山県岡山市)、つやま産業支援センターによる産業振興策について(岡山県津山市)、泉佐野市職員基本条例について(大阪府泉佐野市)>【研修費】議員研修会参加費【広報費】会報印刷代【資料購入費】情報誌購入代 ●解散前の各会派の主な使途状況(平成会)【資料購入費】情報誌購入代、(市民の会)【広報費】会派報折込代、(開政会)支出なし。
新風会	【調査研究費】管外視察調査<イーレックスニューエナジー社土佐工場視察(高知県土佐市)、食文化創造都市について(山形県鶴岡市)、酒田海鮮市場について(山形県酒田市)、由利本荘市文化会館「カダレ」建設と維持管理について(秋田県由利本荘市)>【研修費】議員研修会参加費【広報費】議会報告印刷代【資料作成費】事務用品、インク代、ファイルなど【事務所費】デジタルカメラ、パンチ
無所属の会	【調査研究費】管外視察調査<長寿社会のまちづくりについて(千葉県柏市)、廃校利用について(千葉県柏市)、障がいのある人も、ない人も共に安心して暮らせる条例について(東京都八王子市)>【研修費】議員研修会参加費【広報費】議会報告印刷代、はがき、折込料
公明党	【調査研究費】管外視察調査<イーレックスニューエナジー社土佐工場視察(高知県土佐市)、定住促進事業について(秋田県仙北市)、循環型農業推進事業について(秋田県湯沢市)、健康の駅推進事業について(秋田県横手市)、海上自衛隊呉地方隊表敬訪問(広島県呉市)、持続可能な社会づくり岡山ESDプロジェクト事業について(岡山県岡山市)、産業振興策について(岡山県津山市)、市職員基本条例について(大阪府泉佐野市)>【研修費】議員研修会参加費【資料作成費】事務用品、インク代、コピー代
自民党	【調査研究費】管外視察調査<堺商工会議所の貿易と外務省予算について(大阪府堺市、東京都千代田区)、対米輸出と外国へのアンテナショップ出店方法について(東京都千代田区)>、「海の森作り」講習会、生活改善研究会【要請・陳情活動費】外務省及び国会議員訪問【資料作成費】文具代、写真資料制作費、事務用品など【資料購入費】書籍購入代、機関誌購入代【事務所費】事務所賃借料、CDラジカセ購入、ごみ袋代
無会派 (高司政文)	【研修費】管外研修費<イーレックスニューエナジー社土佐工場視察(高知県土佐市)、議員研修会参加費>【広報費】議会報告印刷代【広聴費】議会報告会会場費【要請・陳情活動費】中央省庁【資料作成費】ボードマーカー【資料購入費】書籍、新聞代
無会派 (井野上準)	※支出なし。

※平成28年6月20日に「無所属の会」は「佐伯を元気にする無所属の会」に会派名を変更しています。

「熊本・大分地震」義援金を贈呈

平成28年6月27日に、井野上準議長と江藤茂副議長が、別府市議会及び由布市議会を訪問し、被災状況の説明等を受けた後「義援金」10万円を贈呈しました。

また、熊本県への「義援金」10万円については、義援金受入口座に振り込みました。

一刻も早い復旧・復興を祈っています。

※義援金の原資は、全議員の個人負担です。

2市の被災状況

●別府市（6月30日現在）

罹災証明申請受付件数 3717件
 家屋の全壊棟数 2棟
 人的被害（重軽傷等） 31人
 避難所開設 42か所
 最大避難者数（延べ） 5691人



●由布市（7月6日現在）

罹災証明申請受付件数 2026件
 家屋の全壊棟数 1棟
 人的被害（重軽傷等） 7人
 避難所開設 約25か所
 最大避難者数（延べ） 約4000人



9月定例会のお知らせ（予定）

- 【8月】30日（火）開会
- 【9月】6日（火）一般質問
- 7日（水）一般質問
- 8日（木）一般質問
- 9日（金）一般質問
- 13日（火）経済産業・教育民生常任委員会
- 14日（水）建設・総務常任委員会
- 15日（木）予算特別委員会
- 21日（水）閉会

※ぜひ傍聴にお越しください。

【お詫びと訂正】

佐伯市議会だよりNo.45（5月1日発行）において、P5掲載の「補正予算」の内容に一部誤りがございました。下記のとおり、訂正してお詫び申し上げます。大変ご迷惑をおかけしました。

（誤） 備蓄倉庫 400 棟分の補助金



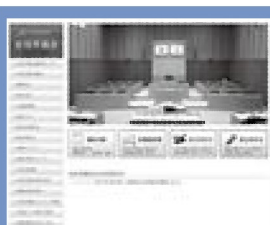
（正） 備蓄倉庫 40 棟分の補助金

編集後記

平成19年度に創建1200年祭を行った大宮八幡神社に永代続く「ジョーヤラ」についてお聞きしました。八幡宮は、古来豊漁の神（漁神様）として信仰され、たくさんの漁舟が五丁の浜に集まってきた。実に爽快な状況でした。この「ジョーヤラ」は昔から、この佐伯湾一帯の漁民の間に伝えられてきていたものであり、「ジョーヤラ」とは、漁あれという意味で、「漁あれ、漁あれ」が「ジョーヤラ、ジョーヤラ」となってきたといわれています。

一時中断した時期もありましたが、昭和47年に当時活発に活動していた青年団により復活されました。当時の映像をDVDにて貸出しも可能です。現在では、彦陽中学校の生徒が毎年参加し、伝統を継承しています。地域活性化が叫ばれている現在、私は地域の「祭り」、「伝統」を守り、継承していくなかで、活路が見えてくるのではないかなと思っています。

広報委員 上田 徹



審議会及び委員会をインターネットで録画映像配信しています。佐伯市議会のホームページからご覧ください。